



【今回のテーマ】

「英語教育実施状況調査」から授業改善を考える

本号では、先日文部科学省から公表された「令和3年度英語教育実施状況調査」の結果を共有し、これからの授業改善について考えていきましょう。

調査の内容

- 「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標の設定・公表・把握の状況
- 授業における児童・生徒の英語による言語活動時間の割合
- 小中連携の実施状況について
- 生徒の英語力の状況（中学校） → 38.9% (RI から +4.1%)
- 教師の英語力の状況（中学校） → 35.6% (RI から +10.4%)
- 授業における教師の英語の使用状況（中学校） → 72.5% (RI から +0.9%)
- ICT 機器の活用状況 → 小中学校ともに 100%



詳しい結果はこちら



など

文部科学省の分析(中学校の結果から)

- ☆生徒の英語力向上に、「生徒の英語による言語活動時間」「教師の英語力」が影響。
- ☆「教師の英語使用割合」が高いほど「生徒の英語による言語活動時間」の割合も高い。

「英語力のある教師によるコミュニケーション重視の指導」と「活発な英語による言語活動」が、生徒の英語力の向上に必要。

調査から小中学校を通して考えたいこと

(1) 「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を公表・把握している中学校の割合は大きく増加しました。各学年で「何ができるようになるか」を児童生徒と共有したり（公表）、単元目標やパフォーマンステストでの評価内容を学習到達目標に基づいて設定したり（把握）することで、ねらいを明確にした授業づくりを行っていきましょう。

【学習到達目標に関する参考情報】

- ①小中学校の連携による英語教育推進事業
- ②岩手県山田町立豊間根小学校
(国立教育政策研究所研究指定校事業)
- ③大分県佐伯市立上堅田小学校

①



②



③



(2) コロナ禍という状況もあり、中学校で「生徒の英語による言語活動時間の割合」は減少しました。ここで、小中学校ともにそれぞれの領域における言語活動が一層充実するよう、改めて「言語活動を通した指導」について確認しましょう。

【言語活動の充実に向けて】

